

平成29年度

第1回庄原市道徳教育推進委員会研修会

- 日 時：平成29年8月3日（木） 13：30～16：40
- 場 所：庄原市総合体育館 第2会議室
- 対象者：庄原市内各小・中学校の道徳教育推進教師26名

目 的

- ・「特別の教科 道徳」が目指す新たな道徳教育の展開について、理論研修・演習を通して理解を深めるとともに、児童生徒が、「考え、議論する」道徳の授業づくりのポイントについて研修を行うことで、今後の道徳教育の実践に生かす。
- ・道徳教育推進教師としての役割を理解するとともに、校内における道徳教育推進及び充実を図るための方策について研修する。

講話 「道徳教育推進教師の役割について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 赤木 一成



【講話の概要】

○小学校では来年度、中学校では平成31年度より「特別の教科 道徳」が全面実施されるため、道徳教育推進教師の役割が非常に重要になってくる。とりわけ、次の3点について、各校で取り組む必要がある。

- ①「考え、議論する」道徳授業への質的転換
- ②「特別の教科 道徳」の評価への準備
- ③指導計画等の作成

サテライト研修講座 「児童生徒が『考え、議論する』道徳の授業づくり」講座 広島県立教育センター 企画部 指導主事 中野 詠美子



受講者より

- ・「考え、議論する」ことの意味、内容など理解することができた。
- ・児童の変容を見取るためには、児童に気付かせたい道徳性を明確にした丁寧な授業づくりが必要であると感じた。

【サテライト研修講座の概要】

○「考え、議論する」道徳授業とは、児童生徒が自分の考えを深め、互いの理解を深め合うことで、道徳的な課題に対する納得解を得ることである。

○児童生徒が自分の考えを深めるためには、発問の工夫が必要である。発問を考える際、次の3点に留意しなければならない。

- ①考える必然性や切実感のある発問であるか。
- ②自由な思考を促す発問であるか。
- ③物事を多面的・多角的に考えることのできる発問であるか。

○道徳科において、児童生徒の自己内成長を見取る視点として次の2点が考えられる。

- ① 多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ② 道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているか。